

11月のコラム ビジネスと人権

1個30円ほどと低価格でありながら、なかなか美味しい人気のチョコレート菓子「ブラックサンダー」ご存知でしょうか。そのブラックサンダーを生産している有楽製菓株式会社が、2024年7月生産商品より使用するカカオ原料のすべてを児童労働問題に配慮したカカオ原料に変更しました。

「カカオ豆」は主に西アフリカ諸国で生産されていますが、実はその生産のために多くの子どもたちが働いています。働く子どもたちは学校へも行けず、将来の夢を描くこともできません。このような問題解決の一助になればという思いから、2020年より児童労働撤廃に取り組むカカオ原料への切り替えを始め全商品100%の目標に達成したそうです。

日本で関心を持つ人は多くないと思いますが、世界の児童労働者は、1億6000万人。これは世界の子ども人口（5～17歳）のおよそ10人に1人が児童労働をしていることになるのです。この数字に驚きを隠せません。毎日のように口にする食べ物、衣服、日用品、遠くの貧しい国の問題と片づけていいわけがないと改めて思います。

おりしも社労士会で「ビジネスと人権」という研修を受けました。外国企業と直接取引している会社は少ないから関係ないだろうと思っていたのが大間違いだったことがわかりました。

例えば、世界的潮流として、強制労働をサプライチェーンから排除する仕組みづくりが進んでいます。日本の技能実習制度は、強制労働の実態があり人身取引だとの指摘を受けています。制度は何度も見直されていますが、実態は長年変わっていません。発注先で違法な長時間労働や賃金未払いがあると、自社へも影響が及びます。適切な労働条件が確保される納期や法定福利費も含めた発注額になっているか？自社が法令遵守していたとしても下請け会社がそのような法違反を犯していた場合、取引停止となるリスクがあるのです。日本の金融機関が、人権問題で融資審査を厳格化するという記事も読みました。職場におけるハラスメントや性別・国籍等を根拠とした賃金格差も人権侵害に当たります。

人権というとなにやら堅苦しくて身近に感じる事ができないのですが、そんな難しいことでなく、

「想像力を働かせて人を人として大切にすること」

会社も社員も一人一人が、互いに尊重し合うことに他なりません。

私たちが目指すのも人を大切にすること、社会づくりです。

2024年11月 水田かほる

